

“わ”ふれあい

1999年 10月

第7号

TEL(078)743-8101

FAX(078)743-8103

KSC 社会還元センター

ふれあい編集委員会

大切にしたい

ボランティアのころ

…イベントの成功に感謝…

結果よければすべてよし。ものごとの成否は結果でなく、その過程である。目標をきめ、準備を充分すれば 70~80% 成功。

いろいろな表現がある。こいどのイベントについて私の立場では軽々にいえない。ただ、講演会場が満席になり、炎天下のスポーツも事故もなく終わり、ご支援、ご協力に感謝するのみ。

私はつねづね、運動体は名称がシンプルなものの方がよいと思っている。たとえば大きくは地雷禁止、身近には給食ボランティアなど。

わが“わ”はカレッジ卒業生の団体という点はシンプルだが、活動は多様、しかも自発的で組織も柔軟である。一方、充足感と求心力が求められる。

増え続ける会員、自主的で多様な活動求められる充足感、そして財源。はじめにして永遠の課題でもある。こんごの活動はどうあるべきか、先入観にとらわれず、さまざまな活動をしてほしい。ただ底流にボランティアの心があることを忘れずに。

もう40年前にもなろうか。60年安保のころ、総評定期大会で炭労の原委員長が『戦略なき戦術は敗北感のみ残る』といった言葉が私の耳に深く残っている。

国際高齢者年・しあわせの村
10周年記念事業

実行委員長 福原克巳

1999.09.17

大切にしたいボランティアのころ…イベントの成功に感謝	1
いきいきー高齢者年記念事業…結集した活力の継続・発展を	2
『いきいきヘルシーライフ』の記念講演会…盛大裡に終えて	3
ローンボウルズに参加して	4
C会場でのシニア・スポーツの催し	4
台湾新聞ニュース/要訳	5
講演会場風景写真/後記	6

いきいき — 高齢者年記念事業

結集した活力の継続・発展を —

プロジェクトチーム

リーダー 小島 哲 (I)

8月22日、国際高齢者年・しあわせの村開村10周年を記念して開催した「グループ“わ”」の本年度特別事業「いきいき ヘルシーライフ」は、酷暑を押して実施した野外でのニュースポーツとカレッジでの講演会という密度の濃い両立てイベントを、大過なく運営することができた。

ニュースポーツ7種目に450人、講演会には750人、合計1,200人の参加者数は、計画・準備・運営面で実行委員会からのアンケート依頼者の80%が「良」と答えた数字と合わせ、大の字の付く「成功」と受け止めることができる。

特筆したいのは「グループ“わ”」が発足3年目で初めて取り組んだ単独主催事業であったことだ。それも国、県、市などタテ割りの指導や管理を離れ、民間レベルとして自立した計画を立て、高齢者年関連事業としては全国的にも最も早い時期に展開した点に特色があった。

事業を成功に導く恵まれた背景はあった。孟子の名言をもじれば「天の時、地の利、人の和」すべての面で、これ以上はない、といえるラッキーイベントである。

普通はテーマの検討が第一関門となるが、今回はタイミングよく「国際高齢者年」という、私たちのグループにうってつけのテーマが「時代の要請」として与えられたおかげで今日的话题に向けて踏み出すことができた。

「いきいきとした健康」こそ、活力ある高齢社会を支えるためになくてはならぬ要素、と記念事業の内容もスムーズに決まり、キャンペーンの展開が始まった。

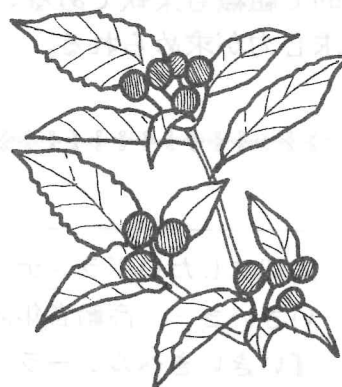
地の利にも恵まれた。健康開発を目的とした国際研究組織として神戸市に設置されたばかりのWHO神戸センターの存在が大きい。今井学長が仲介して兵庫県国民健康保険団体連合会との間が「健康」ホットラインで結ば

れ、強力なバックアップ態勢が出来上がる。こうした動きが住田講師を引き受けてくれたNHK ほかもスコミ各社の後援につながり、重みのある支援グループを形作った。

人の和、という点でこうべ市民福祉振興協会(実質はシルバーカレッジとしあわせの村)による特別協力は「しあわせの村開村10周年記念」の冠が付いて会場、日程、用具、その他運営上の協力を得て事業を推進させた。高齢者年記念事業の成功で、カレッジとしあわせの村の知名度アップに貢献できたのではないか、と思う。

昨年の全国トンボ市民サミット神戸大会運営にタッチした経験は、ノウハウの積み上げと自信に裏付けられた人的資源を残してくれた。開催日に向け卒業生、在校生一体となった盛り上がりこそ、時代を先取りし、文化を創造してきた私たち高齢者の活力が今なお健在であることを示している。

アンケート調査によれば特別事業の継続を望む声が過半数を占めるとともに具体的な提案もあった。今回の成功を次回につなげて、より良い内容に向け、チャレンジしたい。



『いきいきヘルシーライフ』の 記念講演会…盛大裡に終えて…

“手話”と“要約筆記”の共援

去る 8月22日“わ”主催により国際高齢者年・しあわせの村開村10周年記念行事として行われたカレッジホールでの記念講演会は、立ち聞きの人のほか会場に入り切れないほどで、500人を超す聴講者を得て大成功であった。講師はNHKアナウンサー住田功一氏により「私の出会ったヘルシーピープル」と題して13:30～15:00まで講演。今回の講演会には手話通話および要約筆記の共援による障害者の方の聴講にも配慮された。“要約筆記”は数人の担当者が講師の話を追って要約しながら、つぎつぎと話のフレーズを筆記と同時にOHPによりスクリーンに大映しして、難聴者にも講演内容が解るようにしたもので、初めて見た人も多かったのではないと思われる。要約筆記はボランティア団体の『つどいホワイトボード』（略称「ホワイト」）のお世話になった。そして同団体の情報誌『ホワイトつうしん』に住田氏の講演の内容が紹介された。

当日は各イベント会場の役割担当の皆さんの中には聴講できなかった人も多かったと思われるため、「ホワイト」による紹介記事から講演の概要を拾ってみよう。

講演に先立ち今井鎮雄学長からは「21世紀は高齢者がいろいろ活動し、①自立、②社会のシステムに参加、③ケア、④自己実現、⑤尊厳、を基にあらゆる世代の人と共に年寄りも社会の一員として生きよう。そしてボランティアは社会の断絶を埋めていく仕事なのである」とあいさつ。

次いで住田氏の講演では「“長寿の食卓”というテーマで100余名（平均年齢：男性が84.5、女性が87.9）の長寿の人の話では、食卓事情の特徴は様々であるがベスト10でいえば、1位＝山菜（12名）、2位＝昆布・じゃこ・つけもの・モロヘイヤ・特性ジュースなど（各4名）、7位＝果実酒・鯉・にしん・大豆など（各3名）、次点＝梅干系…とつづく。結論的には、これを食べれば長寿という決め手はない。要はバランスよく、量多く、よく噛んで、家族と楽しく…食べることのようにである。

趣味はサイクリング、ゲートボール、ダンス、カラオケ、演劇、自然観察、漁師…など人とのつながりを持っている。人の反応や評価が長生きへの相乗効果になっているのではないか。

ガンや心臓病などの遺伝子もインプットされていても、少しでもそのスイッチがONにならないよう刺激を避けるために食べ物に気をつけたり、ストレスを溜めないようにし、はりあいをもつことである。」と語り、そして神戸出身の氏が震災によって多くの後輩を失った心の悼みにふれ「震災では神戸大学の後輩39名が死亡。灘区六甲町も被害が大きく、大学生が下宿していた西尾荘の1階に住んでいた3名が家屋の下敷きになり、火の回りが速く、亡くなった。学生と交流のあった藪田さん（64歳のおばさん）、今も毎日お供えをし、学生を助け出せなかった無念さを思い、そこにたって亡くなった学生に語りかける。

銀行さえ倒産する今の世、何が起きるかわからない。日常でも思いがけないことが起こる。どう対処するか？ つらい・嫌なことはどう乗り越えるか？ 強く、したたかな心が大切になってくる。そのためには美味しいものを食べたりしてベースを整えよう…」と語りつづけ、“見聞きした長寿の秘訣”として締め括った。



要約筆記 手話通訳 住田氏

ローンボウルズに参画して

水野 雅廣(Ⅲ)

「たのしもうヨ」だれでも参加できるニュースポーツ(体験ラリー)として、ローンボウルズを行いました。

8月22日は残暑ことのほか厳しく、炎天下、プレー人員約120名を教え、特にD部会のご協力による外国人の方々、また遠方から来られた方(大阪府交野市)も楽しくプレーされました。何の事故もなく、盛況裡に終えましたこと嬉しく、喜ばしく思います。

ローンボウルズを受けもったSC生涯スポーツクラブのメンバーは、神戸大・山口先生のご助言をいただき、糟谷代表の計画どおり、これまで、2回のSLSローンボウルズ大会開催の経験を生かし、メンバー各位の協力により、スムーズにことが運べたと思っています。

ことに、“わ”の本部の方々の細部にわたる行き届いた準備により、ローンボウルズの会場においては、大変やりやすかったことについて、お礼申し上げたいと思います。また、会場の関係者の方々のご協力も忘れることができませんでした。

ローンボウルズを含めニュースポーツは、体を動かすことにより、健康によいし、勝敗を度外視して、誰でも、気軽に、楽しくプレイでき、しかも、仲間作りにも役立つし、ひいては、生き甲斐につなげるものがあります。高齢者には最適なスポーツだと思っています。

今後ともこのような催しがあれば、ぜひ参加したいと思っています。

C会場でのシニア・スポーツの催し

野間 健三(Ⅱ)

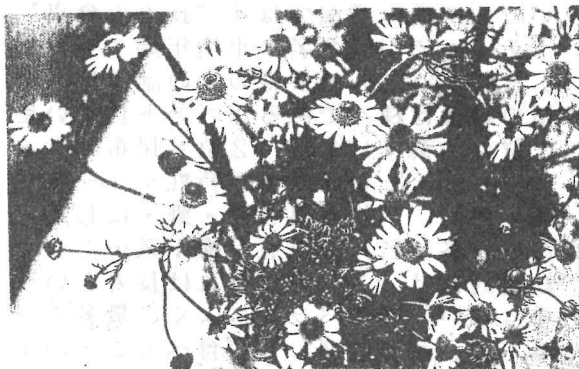
シニアの人たちに、誰でもが、安全で、気軽に取り組めるスポーツを体験していただくとうと、カレッジホールで「囲碁ボール」、「輪投げ」、「シャッフルボード」、「カローリング」の4種目を、中庭で「ペタンク」と計5種目を行いました。

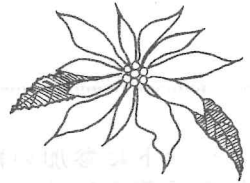
参加された方の中には、「輪投げ」以外はもの珍らしく、これまで手がけたことのないスポーツなので、はじめは「見るだけ見せてもらう」といわれていた方もいましたが、手がけやすいスポーツなので、これならやれそうだと取り組んでもらえた。

そして最初は思い通りのプレーが出来なかった人も、すぐに要領がつかめて思わぬ良い結果が出ることもあり、熱が入る人もいました。ただ中庭での「ペタンク」は、暑さと野焼きの煙で苦勞されたことと思います。

開始直後は、参加者がまばらで心配したのですが、程なく、とぎれることなく次々と参加者が増え、ボランティアの人たちも、楽しみながらプレーのお世話をさせていただいたのではないかと思います。

大勢の方々が事故なく、目新しいシニアスポーツを体験し、楽しんでいただけたことがお世話した私達としても、ほっとすると共に、やって良かった…との喜びで満たされました。





神戸老人大学 国際交流運動比賽

文/王麗芳

炎熱の艶陽天，氣溫高達卅二度，我們三人：賴連金先生、張素珍小姐與我，亦懷著熱烈無比的心情，前往神戸市北區「幸福村」，參加神戸市老人長壽大學為慶祝一九九九年國際高齡與「幸福村」創設十周年紀念，而舉辦的「充實人生」之活動大會。



巴士繞著蜿蜒如蛇行的山路，沿途風景怡人，如沐森林浴般的享受。當到達目的地時，頓時大開眼界，如臨桃源境界，碧綠如茵的草

坪，整齊一致的樹木，百花爭放著，猶如笑臉盈盈的歡迎我們，而一棟一棟歐風式的建築，乳白的牆壁，配著紅磚的屋頂，如夢如幻的景色，今人流連忘返，由衷地欽佩神戸市政府福祉之進步，身為神戸市民一員的我，亦引以為榮。

大會裡有三大活動項目。除了義賣活動外，尚有室外球技競賽，與室內球技比賽。我們三個門外漢，參加球類比賽，看似簡單，但奧妙無窮。年輕力壯與高齡銀髮比賽對抗，竟不是他們的對手。雖是羞愧萬分，但其樂無比。

義賣場裡，除了琳瑯滿目陳列品外，尚有銀髮族學生參加義工服務活動之寫照，他們以一顆「人老心不老」的精神，且乘著回饋社會之態度，服務於大眾，令人敬佩萬分。

中午除了享用可口美味的便當，並同時舉行「外國人懇親交流會」。出席者有台灣、菲律賓、印尼、巴基斯坦、柬埔寨等代表，每位參加者以簡短的日語自我介紹與略述心得。均獲得紀念品，並照相留念。會場充滿愉快和樂的氣氛。

謹在此虔誠的感謝神戸市老人大學外國人支援—交流部會代表者荀聰一先生、梅谷正芳先生及此次活動所有的銀髮族們親切的招待，難以忘懷，亦讓我有機會發揮我們中國之文化「老吾老以及人之老」。

台灣新聞

THE NEWS OF TAIWAN

開墾台灣・立足天下

1999年9月号【第十八期】1999年8月25日發行

[要訊：(須磨區)梅谷]

神戸老人大學 国際交流運動會

猛暑のなか、台湾出身の賴連金、張素珍、王麗芳の3名は北区「しおわせの村」で開催の1999年國際高齡者年、また「しあわせの村」創立10周年記念事業、テーマ「いきいきヘルシーライフ」に参加した。

バスの道中は森林浴ばりの展望、到着地の素晴らしい環境、歐風建物等々、夢の国の景観にうっとり。神戸市の福祉施設がこのような風光明媚ゾーンに設置され、一市民としても光榮である。

当日のイベントテーマは、バザー、室外球技、室内球技の3テーマであったが、シルバーカレッジ外国人支援・交流部会のイベントで私達はローンボウルズに参加、青年グループと高齡者グループの対抗試合に青年グループとして挑戦。一見シンプルな球技も取り組めば結構難儀で、結局は、SC高齡者グループに恥ずかしながら負けましたが大変楽しい一日を過ごさせて頂いた。

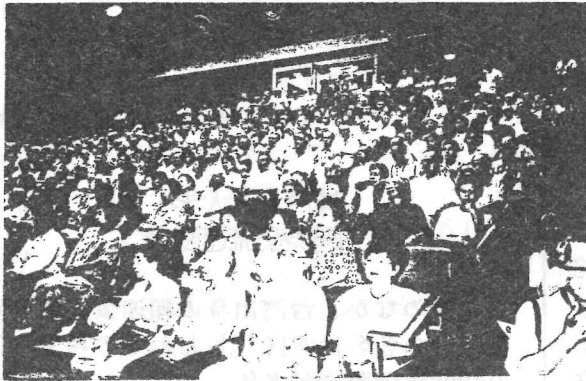
ロビーでは、「人老心不老」(=若返った気持ち)でのボランティア活動の写眞が展示されていた。美味しいお弁当を頂いたあと、「外国人懇親会」に出席のアジアの国々(台湾、フィリピン、インドネシア、パキスタンおよびカンボジア等)の代表から日本語での自己紹介、日本の印象を話し、記念品を頂いたり、写真撮影など、会場は愉快的な気分であつた。

最後に外国人支援・交流部会の荀^{おおね}・梅谷両先生、そしてシルバーカレッジの皆様方の親切なご招待を忘れません。「老吾老以及人之老」(=自分の親だけでなく老人すべてを大切に)年上の人を大事にとの中国文化を機会あるごとに実践していく所存である。

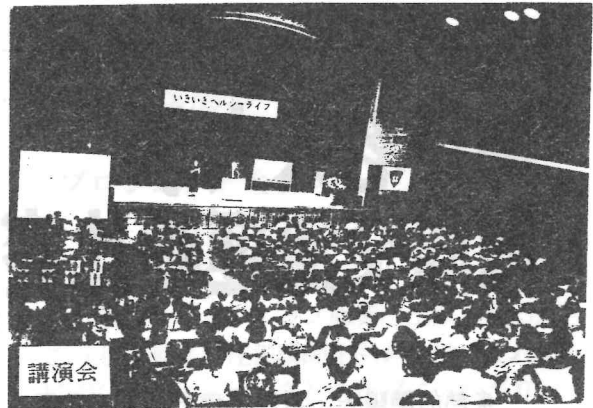
イベントに参加いただいた各方面からお礼の言葉やはげましの言葉が寄せられた。

また在校生および“わ”会員からは今後もこのようなイベントを実施したほうがよいとの多くの意見もきかれた。

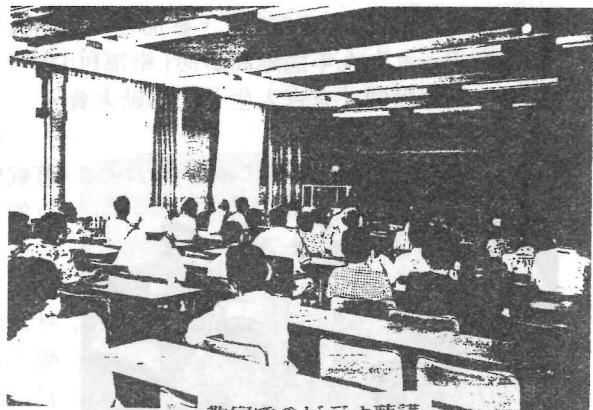
“わ”にとっても、これで終わりとせず今後につなげる励みとなろう。



満席立ち聞き



講演会



教室でのビデオ聴講

◆住田 功一 氏 (NHK アナウンサー) からのお便り

会場みなさんのいっしょうけんめいなまなざしや、私のちょっとしたジョークにもわらっていただいたりしたシーンは忘れられません。こんなに多くの方の前に、お話したのは初めてでしたが、よい経験になりました。今後もよろしくお願ひします。



- トルコ地震義援金については来場の一般市民の方々からもご支援があった。

国際高齢者年記念事業
実行委員会 殿

「トルコ地震災害たすけあい」
義援金として

¥ 42,532

H. 11. 8.27
NHK神戸放送局

編集後記

★霜降も過ぎ朝晩はめっきり涼しく過ごしやすくなってきました。★イベント関連の『“わ”ふれあい』の発行がまたまた大変遅くなって申しわけありません。★部会活動等の記事の寄稿をお待ちしています。